

清飲検協会報

【目次】

IS022000 改定作業中間報告 TC34/SC17/WG8(IS022000 改訂)専門家 湯川 剛一郎	2
家計支出から見た全国 1 世帯当たりの食料費支出金額	6
炭酸飲料 JAS 格付実績	7
果実飲料の依頼検査実績	8
炭酸飲料 2026 年月別・容器別 JAS 格付数量	9
果実飲料 2026 年月別・容器別 JAS 格付数量（直接飲料）	10
炭酸飲料区分別・容器別の格付数量	11

編集 一般財団法人 日本清涼飲料検査協会

〒108-0023 東京都港区芝浦 2-17-13 保坂興産ビル TEL 03-3455-6851 FAX 03-3455-6852

<http://www.seiryouken.jp> E-mail info@seiryouken.jp

業界の動向

ISO 22000 改訂作業中間報告

公益社団法人 日本技術士会 登録 食品産業関連技術懇話会 会員
湯川食品科学技術士事務所 所長
技術士（農業（農芸化学）、総合技術監理部門）
TC34/SC17/WG8（ISO 22000 改訂）専門家 湯川 剛一郎



1. はじめに

ISO 22000 は、2005 年に初めて発行された食品安全マネジメントシステムの国際規格である。規格のタイトルは「食品安全マネジメントシステム—フードチェーンのあらゆる組織に対する要求事項」であり、食品製造、ケータリングなどフードチェーンに直接関与する組織だけでなく、容器包装、流通、小売、サービスなど間接的に関与する組織も適用範囲としている。第2版は2018年に発行された。その後、Codexによる食品衛生の一般原則(HACCPシステムの原則及び適用のためのガイドラインを含む)が改訂され、アレルゲン管理強化なども踏まえ、2023年11月のTC34/SC17でISO 22000の改訂を決定、2024年5月からSC17/WG8において改訂作業が開始された。年に1回のSC17総会に合わせて開催される対面のWGと、中間に開催されるオンライン会議の組み合わせで議論が進められ、概ね1年ごとに作業文書(WD)、委員会文書(CD)と段階を進め、2026年5月には国際規格案(DIS)22000のコメント募集が開始された。

2. WG8 における改訂作業の進め方

2005年版、2018年版を検討する際には、数十名の専門家が参加するWGにおいて、CD、DIS各段階で数百件に及ぶコメントを処理したため、非常に時間を要した。この経験を反省し、

今回の改訂作業では、意見が割れそうな論点をあらかじめリスト化し、それぞれ対応するアクショングループ(AG)を設け、関心のある専門家が当該AGに参加し、次回WGまでの間に文書で意見交換し、整理した結果をWGで報告することとされた。これにより、意見の相違はAGにおける議論の中で整理され、WGで議論が紛糾し、結論を得るまでに時間をかけることなく結果を規格案に反映させることが可能となった。また、WGで意見がまとまらない場合には、Zoom付属の投票システムを活用し、迅速に結論を出すようになった。

3. 主な論点と処理経過

2024年3月のSC17スタディグループで提出された規格に対する改訂の要望は、次のとおりであった。

(1) 規格への追加希望

- ・OPRP（オペレーション前提条件プログラム）、CCP（重要管理点）、妥当性確認、継続的改善に関する解説付録
- ・環境管理、アレルゲン管理
- ・食品安全文化、食品ロス、食品偽装、食品防御

(2) 調和させる構造(HS: Harmonized structure)との整合

(3) Codex との関連

(4) その他(CCP定義見直し、ISO 22002 シリーズの義務化等)

これらについて議論を行い、検討すべき課題を2で述べたアクショングループにおいて議論した。WGにおいて合意された主な課題とアクショングループの報告概要、DIS 22000への反映状況を図表1に示す。また、アクションアイテム22の報告で提案された箇条8のPDCAサイクルを図表2に示す。

なお、アクションアイテムには取り上げられなかったが、食品防御及び食品偽装については箇条8.1「運用の計画及び管理」にそれぞれ8.1.2「食品防御」、8.1.3「食品偽装」として含められた。これに伴い、将来的にISO 22002-100からこれらの要求事項は削除される。

4. 筆者の見解

(1)PRPの名称について

これまでのISO 22000におけるCCPとOPRPの定義を図表3にまとめた。2005年版のOPRPは、PRPの一部として定義されている。しかし、2018年版では「重要な食品安全ハザードを予防又は許容水準まで低減する」機能はCCPと同じ内容になっており、OPRPはCCPと同様の目的を有する管理手段として定義されている。PRPとの関係もなくなり、この時点で名称を変更すべきであった。しかし、OPRPの名称が定着しているとしてそのままとされた。今回のDIS 22000では、両者の定義はさらに似たものになり、OPRPのCCPとの類似性が強くなった。

筆者は、PRPとの関係を示唆するOPRPの名称は、ISO 22000の理解を妨げる大きな要因になっていると考えている。WG8では、アクションアイテム11で「critical control measure」「hazard control measure」「significant control measure」などが提案されているが、本質的な問題ではないとの理解で掘り下げた議論は行われていない。

筆者は、ISO 22000に初めて接する者がOPRP

の理解で苦労しないよう、名称を変更すべきであり、コメントを提出したいと考えている。

(2)継続的改善について

アクションアイテムの一つとしてマネジメントシステムの継続的改善の附属書案の作成がある。マネジメントシステムには3つのPDCAサイクルがある。最も小さいサイクルは運営に関するサイクルでISO 22000では箇条8内のHACCPのサイクルが該当する。このサイクルでは是正処置までが行われ、基本的に管理プランの変更は行わない。次のサイクルは箇条8、箇条9、箇条10を経て箇条6「計画」に戻るサイクルである。この場合は、計画に遡って変更を行う可能性があり、システムの変更を伴う改善が達成される。最も大きなサイクルは箇条10から箇条4「組織の状況」にまで戻るサイクルである。このサイクルでは組織を取り巻く状況を再確認し、必要に応じ箇条5で組織の方針を見直す。その一環としてイノベーションに関わる可能性もある。

リスクを検出しシステム変更の是非を考える時点が機会であり、機会の活用を心がけることで継続的改善が達成される。

こうしたアイデアを附属書に盛り込めるようコメントを提出していきたい。

5. 今後の予定

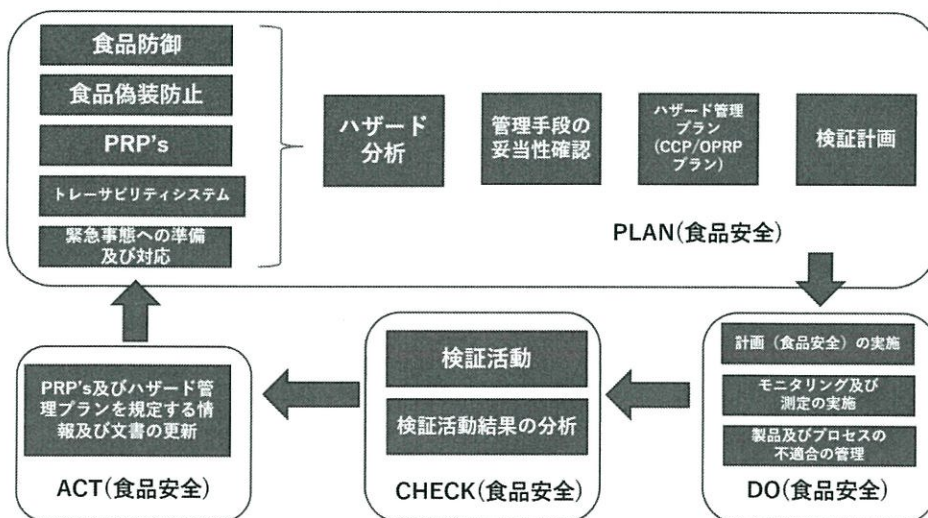
DIS 22000に対するコメント提出期限は2026年7月29日である。提出されたコメントを11月にアルゼンチンで開催されるWG8で検討し、順調に進めば、残された課題を2027年3月頃開催されるWG8でFDISに向けた議論を行う。ここで検討が終了すれば2027年半ばにはFDIS投票を開始、早ければ2027年後半にはISO 22000: 2027年版として発行される可能性がある。この通り進むとは限らないが、そうした見通しが可能な段階に来ていることは確かである。

図表 1 アクションアイテムと DIS への反映状況

番号	案件	アクショングループ報告概要	DIS 22000 の記述
第 1 回 WG8 オンライン (2024 年 5 月)			
1	ISO 22002 シリーズ義務化のメリット・デメリット検討	・賛成意見: 食品安全管理の標準化や信頼性向上、明確なガイドラインによる実施の容易さ、監査の精度向上、リスク低減 ・反対意見: 企業の多様性や発展段階を考慮しない画一的な要求による負担増、特に小規模企業や発展途上国への影響、柔軟性の喪失、監査コストや準備時間の増加、ISO の原則である自主性の低下	(義務化はされていない。)
2	「外部で開発された要素」の定義案作成	2018 年版箇条 7.1.5 (FSMS の要素) 及び 7.1.6 (プロセス、製品、サービス) に関する意見を併記	箇条 3.16 「外部で開発された要素」 (仮訳) 外部の関係者によって提供される FSMS の側面、構成要素又は一部分
6	CCFH 文書との整合とバリデーション検討	バリデーションの対象をクリティカルリミットやアクションクライテリアに明確化。また、ハザードコントロールプラン全体のバリデーションも新設。	バリデーションの用語は箇条 8.5.3 「管理手段及び管理手段の組合せの妥当性確認」のみに見られ、箇条 8.5.4 「ハザード管理プラン」には見られない。
8	食品安全文化の導入提案	食品安全文化を「組織の食品安全達成を支える価値観・信念・歴史・倫理・態度・行動」と定義。トップマネジメントが食品安全文化の評価と継続的改善にコミットすることを箇条 5 の要求事項として明記	箇条 5.4 [食品安全文化] (仮訳) トップマネジメントは、組織の食品安全文化が評価されることを確実にし、その向上に取り組むことをコミットしなければならない。評価結果は、文書化した情報として利用可能でなければならない。
第 2 回 WG8 リマ (2024 年 11 月)			
11	OPRP と CCP の定義・区分の精緻化	CCP と OPRP の定義案を提示	箇条 3.11 「critical control point」 (仮訳) 定義された許容限界及びモニタリングを適用し、適時の修正の実施を可能にするために適用される管理手段 箇条 3.32 「operational prerequisite programme」 (仮訳) 定義された措置基準及びモニタリングの下で適用され、工程及び/又は製品の効果的な管理を可能にする管理手段
12	Clause 8 構造の検討と CCFH 文書との整合	箇条 8 を大括り (8.1~8.8) と細分化 (8.1~8.13) した案が示されている。	箇条 8 は 8.1~8.9 (箇条数は 2018 年版と同じだが構成は異なる。)
15	サプライヤー保証管理の条文追加	4 つの案が提示された。 (1) ISO 22002-1 (2009) と ISO 22000:2018 の現行要件の統合案 (2) 現行テキストを用いず要件を統合する案 (3) 材料・サービス・プロセスの管理を拡張する案 (4) 包括的な新テキスト案 (推奨案)	箇条 7.1.6 「外部から提供された材料、製品、工程及びサービス」 (仮訳) 食品安全に影響を及ぼす外部から提供される材料、製品、工程及びサービスは、利用する外部提供者が規定された要求事項を満たす能力を有していることを確実にするために、管理されなければならない。(以下略) (2018 年版と基本的に変わらない。)
19	苦情マネジメントに関する要求事項の場所 (新たな箇条 10.3) の確認	文章を修正し箇条番号を変更することとした。	箇条 10.3 苦情マネジメント (仮訳) 食品安全に関する苦情及び苦情データをマネジメントするためのプロセスは、食品安全に関する苦情が取り上げられることを確実にするために確立し、実施し、維持しなければならない。有効な苦情については、10.1 及び 10.2 に従い、該当する場合には修正及び是正処置が実施されなければならない。
第 4 回 WG8 パリ (2025 年 11 月)			
21	継続的改善に関する参考附属書案の作成	・是正処置や修正は現状維持のための措置であり、改善はシステムの変更を伴う。 ・継続的改善は、ISO 22000 の PDCA サイクルの 2 つのレベルで組織の計画と管理に組み込まれている。 ・組織はリスクを特定した際、積極的に機会を探し、取り組む努力が必要である。	(引き続き検討することとなった。)
22	図 1 (Organizational planning and control) および 0.3.3 の修正	図 1 の修正版 (箇条 8 の PDCA 部分) が提案された。	DIS 22000 に図表 2 が図 1 の一部として収載された。
第 5 回 WG8 オンライン (2026 年 3 月)			
24	継続的改善に関する参考附属書案のさらなる作成	(提出期限 2026 年 8 月 1 日)	

注: 一部項目は掲載を省略した。

図表 2 箇条 8 の PDCA サイクル (図 1) の修正案



図表 3 CCP 及び OPRP の定義の変遷

	CCP	OPRP
2005 年版	管理が可能で、かつ、食品安全ハザードを予防若しくは除去、又はそれを許容水準まで低減するために必須な段階	安全な最終製品及び人の消費にとって安全な食品の生産、取り扱い及び提供に適したフードチェーン全体の衛生環境の維持に必要な基本的条件及び活動
2018 年版	重要な食品安全ハザードを、予防又は許容水準まで低減するために管理が適用され、かつ規定された許容限界及び測定が修正の適用を可能にするプロセス内の段階	重要な食品安全ハザードを予防又は許容水準まで低減するために適用される管理手段又は管理手段の組合せであり、処置基準及び測定又は観察がプロセス及び/又は製品の効果的管理を可能にするもの
DIS 22000	(仮訳) 定義された許容限界及びモニタリングの下で適用され、修正を適時に適用できるようにする管理手段	(仮訳) 定義された処置基準及びモニタリングの下で適用され、工程及び/又は製品の効果的な管理を可能にする管理手段

JAS協会公式キャラクター

じゃすひめちゃん[®]

LINE スタンプ販売中!

おはようございます
おやすみなさい
よろしくお願いします
ありがとうございます
ごめんなさい
了解しました!
おまかせください!
なるほど
がんばー!!!
おつかれさまです
JAS

全 40 種類

「LINE STORE」クリエイターズスタンプ より

JAS協会 で検索!

50コイン/150円

QRコード

家計調査・飲料費支出額

家計支出から見た全国1世帯当たりの食料費支出金額《用途分類》

資料:総務省統計局家計調査報告

	2026年5月 円	2025年5月 円	前年対比 %	2026年1月 ～12月(円)	2025年1月 ～12月(円)	前年対比 %
○消費支出	328,969	339,232	97.0	1,580,990	1,577,066	100.2
○食料	88,101	91,421	96.4	437,311	431,359	101.4
食料のうち						
果物	3,135	3,381	92.7	16,056	15,464	103.8
菓子類	8,088	8,501	95.1	42,114	39,417	106.8
飲料	5,697	5,500	103.6	28,207	26,455	106.6
酒類	3,490	4,279	81.6	17,206	17,325	99.3
外食	13,956	14,934	93.5	73,271	69,560	105.3
牛乳	1,242	1,292	96.1	6,248	6,163	101.4

家計支出から見た全国1世帯当たりの飲料費支出金額《品目分類》

	2026年5月 円	2025年5月 円	前年対比 %	2026年1月 ～12月(円)	2025年1月 ～12月(円)	前年対比 %
○飲料	5,807	5,608	103.5	28,778	26,948	106.8
茶類	1,212	1,227	98.8	6,207	5,865	105.8
緑茶	257	273	94.1	1,541	1,428	107.9
紅茶	76	86	88.4	431	400	107.8
他の茶葉	161	141	114.2	809	707	114.4
茶飲料	718	727	98.8	3,426	3,329	102.9
コーヒー・ココア	1,523	1,333	114.3	7,617	6,255	121.8
コーヒー	970	841	115.3	4,971	3,880	128.1
コーヒー飲料	521	447	116.6	2,413	2,153	112.1
ココア・ココア飲料	32	45	71.1	232	221	105.0
他の飲料	3,073	3,048	100.8	14,955	14,827	100.9
果実・野菜ジュース	561	590	95.1	2,669	2,769	96.4
炭酸飲料	659	646	102.0	3,108	3,001	103.6
乳酸菌飲料	447	474	94.3	2,202	2,358	93.4
乳飲料	258	246	104.9	1,218	1,175	103.7
ミネラルウォーター	358	334	107.2	1,781	1,677	106.2
スポーツドリンク	87	81	107.4	444	432	102.8
他の飲料のその他	702	678	103.5	3,533	3,415	103.5

1. 容器別 (KL)

缶=SOT缶+ボトル缶

容量 ml	2026年6月	前年比%	2026年 1～6月	前年比%	シェア-%
リターナブルビン					
190	1,861	105.6	10,721	91.0	3.4
200	0	-	38	97.4	0.0
207	404	106.9	2,111	92.4	0.7
242	0	-	0	-	0.0
その他	0	-	0	-	0.0
小計	2,265	105.8	12,870	91.3	4.1
フワンウェイビン					
110～160	0	-	38	70.4	0.0
300	216	120.0	946	73.6	0.3
350	0	-	0	-	0.0
その他	351	115.8	1,939	96.7	0.6
小計	567	117.4	2,923	87.4	0.9
P E T					
500	3,409	88.4	24,615	118.1	7.8
1,500	24,945	104.6	164,109	107.0	51.7
その他	957	207.6	3,440	100.7	1.1
小計	29,311	104.0	192,164	108.2	60.6
缶					
160	2,256	115.0	11,974	106.0	3.8
250	5,885	134.3	31,522	168.4	9.9
350	6,324	103.0	35,967	93.7	11.3
500	4,351	101.0	24,940	86.8	7.9
その他	758	56.8	4,965	64.0	1.6
小計	19,574	108.0	109,368	104.3	34.5
合 計 (kl)	51,717	105.7	317,325	105.8	100.0

2. 区分別 (KL)

区分	2026年6月	前年比%	2026年 1～6月	前年比%	シェア-%
1. 水に二酸化炭素を圧入した もの	873	105.2	4,586	79.8	1.4
2. 果汁・果汁ピューレ・乳又は乳 製品を加えたもの	189	1.9	1,034	1.7	0.3
3. 果汁又は、果汁を印象づける 色及び香りをつけたもの	10,372	-	71,136	182,400.0	22.4
4. 1,2及び3以外のもの	40,283	102.3	240,569	103.6	75.8
合計 (kl)	51,717	103.4	317,325	105.8	100.0

果実飲料の依頼検査実績

果実飲料2団体

			2026年 6月	2025年 6月	前年対比 (%)	2026年 1月～6月	2025年 1月～6月	前年対比 (%)	シェア
直接飲料 (kℓ)	果実ジュース	缶	728	786	92.6	3,065	3,009	101.9	
		びん	287	352	81.5	1,398	1,982	70.5	
		その他	1,655	1,701	97.3	9,463	11,123	85.1	
		計	2,670	2,839	94.0	13,926	16,114	86.4	23.9
	(果汁入り飲料 (50%以上))	缶	0	0	—	103	0	—	
		びん	0	0	—	1	0	—	
		その他	0	0	—	0	0	—	
		計	0	0	—	104	0	—	0.2
	果汁入り飲料 (果肉)	缶	190	147	129.3	716	690	103.8	
		びん	0	0	—	0	0	—	
		その他	0	0	—	0	0	—	
		計	190	147	129.3	716	690	103.8	1.2
	(果汁入り飲料 (50%未満))	缶	325	145	224.1	1,248	1,030	121.2	
		びん	252	189	133.3	1,136	1,241	91.5	
		その他	4,740	5,505	86.1	37,230	38,029	97.9	
		計	5,317	5,839	91.1	39,614	40,300	98.3	68.0
	(果汁入り飲料 (乳・野菜汁) 及び果実野菜 ミックスジュース)	缶	0	0	—	0	17	—	
		びん	0	0	—	24	14	171.4	
		その他	138	131	105.3	697	778	89.6	
		計	138	131	105.3	721	809	89.1	1.2
	果実ジュース・ 炭酸入り飲料	缶	16	0	—	31	16	193.8	
		びん	564	1,016	55.5	3,123	4,957	63.0	
		その他	0	0	—	0	0	—	
		計	580	1,016	57.1	3,154	4,973	63.4	5.4
	果実ジュース・ 果汁入り飲料 果粒入り	缶	0	0	—	8	12	66.7	
		びん	0	0	—	0	0	—	
		その他	0	0	—	0	0	—	
		計	0	0	—	8	12	66.7	0.0
	容器別	缶	1,259	1,078	116.8	5,171	4,774	108.3	8.9
		びん	1,103	1,557	70.8	5,682	8,194	69.3	9.8
		その他	6,533	7,337	89.0	47,390	49,930	94.9	81.4
	合 計		8,895	9,972	89.2	58,243	62,898	92.6	100.0
き釈用 (L)	果実ジュース		0	0	—	0	0	—	—
	果汁入り飲料	50%以上	0	0	—	0	0	—	—
		50%未満	14,238	14,823	96.1	99,345	129,772	76.6	116.7
		混合	0	0	—	0	0	—	—
	合 計		14,238	14,823	96.1	85,107	129,772	65.6	100.0

炭酸飲料2026年・月別・容器別JAS格付数量

一般財団法人日本清涼飲料検査協会

月	単位	リターナブル瓶			ワンウェイ瓶			PET瓶			缶			合計		前年 対比%
		数量KL	シェア%	前年対比%	数量KL	シェア%	前年対比%	数量KL	シェア%	前年対比%	数量KL	シェア%	前年対比%	合計	KL	
1	KL	2,216	4.7	86.7	470	1.0	100.9	30,700	65.1	108.5	13,754	29.2	94.2	47,140	102.7	
	C/S	479,710	8.6	87.0	81,568	1.5	97.3	3,294,010	59.0	109.5	1,731,155	31.0	96.5	5,586,443	102.7	
2	KL	1,808	4.2	79.3	277	0.7	40.4	28,820	67.7	107.3	11,690	27.4	96.6	42,595	101.6	
	C/S	391,031	7.8	79.1	54,934	1.1	45.9	3,116,968	62.2	109.0	1,447,882	28.9	101.1	5,010,815	102.1	
3	KL	2,309	4.4	94.6	417	0.8	76.9	29,866	56.4	104.1	20,403	38.5	134.6	52,995	113.2	
	C/S	501,011	7.9	95.0	72,038	1.1	78.2	3,214,919	50.6	105.8	2,569,081	40.4	139.5	6,357,049	115.6	
4	KL	2,286	3.5	92.1	624	1.0	111.0	39,992	61.5	102.9	22,132	34.0	90.5	65,034	98.0	
	C/S	492,191	6.5	91.6	113,173	1.5	117.7	4,237,296	55.7	102.2	2,770,688	36.4	90.1	7,613,348	96.9	
5	KL	1,986	3.4	92.8	568	1.0	117.6	33,475	57.9	118.8	21,815	37.7	120.4	57,844	118.2	
	C/S	430,663	6.3	93.1	101,265	1.5	118.9	3,561,367	51.7	119.5	2,790,820	40.5	122.6	6,884,115	118.6	
6	KL	2,265	4.4	102.9	567	1.1	93.4	29,311	56.7	109.6	19,574	37.8	95.8	51,717	103.4	
	C/S	489,382	7.9	102.7	99696	1.6	91.4	3,126,430	50.4	109.9	2,487,892	40.1	98.6	6,203,400	104.2	
7	KL															
	C/S															
8	KL															
	C/S															
9	KL															
	C/S															
10	KL															
	C/S															
11	KL															
	C/S															
12	KL															
	C/S															
合計	KL	12,870	4.1	91.3	2,923	0.9	87.4	192,164	60.6	108.2	109,368	34.5	104.3	317,325	105.8	
	C/S	2,783,988	7.4	91.3	522,674	1.4	89.2	20,550,990	54.6	108.9	13,797,518	36.6	106.6	37,655,170	106.2	
前年	KL	14,101	4.7	-	3,345	1.1	-	177,609	59.2	-	104,888	35.0	-	299,943	-	
同期	C/S	3,049,854	8.6	-	585,942	1.7	-	18,879,449	53.2	-	12,942,014	36.5	-	35,457,259	-	

④

2026年容器別JAS実績(直接飲料)

()内は前年対比

	缶		びん		紙		その他		PET		合 計
	KL	シェア%	KL	シェア%	KL	シェア%	KL	シェア%	KL	シェア%	KL
1	449 (88.9)	4.7	598 (58.3)	6.3	696 (88.0)	7.3	109 (279.5)	1.1	7,693 (109.3)	80.6	9,545 (101.6)
2	293 (67.0)	3.3	881 (70.2)	10.0	736 (89.6)	8.4	85 (123.2)	1.0	6,792 (95.4)	77.3	8,787 (90.5)
3	1,021 (154.0)	10.0	950 (69.6)	9.3	869 (85.5)	8.5	96 (86.5)	0.9	7,290 (91.7)	71.3	10,226 (92.1)
4	926 (94.5)	82.0	1,181 (74.4)	10.5	933 (68.4)	8.3	93 (100.0)	0.8	8,092 (98.3)	72.1	11,225 (91.6)
5	1,124 (101.2)	11.5	922 (65.7)	9.5	879 (78.7)	9.0	84 (75.7)	0.9	6,728 (100.1)	69.1	9,737 (93.1)
6	1,259 (116.8)	14.2	1,103 (70.8)	12.4	1,062 (94.2)	11.9	120 (108.1)	1.3	5,351 (87.7)	60.2	8,895 (89.2)
7											
8											
9											
10											
11											
12											
合計	5,072 (106.2)	8.7	5,635 (68.8)	9.6	5,175 (83.0)	8.9	587 (109.9)	1.0	41,946 (97.2)	71.8	58,415 (92.9)
前年 同期	4,774	7.6	8,194	13.0	6,236	9.9	534	0.8	43,160	68.6	62,898

※果汁協・清涼飲料検合計

炭酸飲料 区分別の格付数量（統計期間：2026年1月～2026年12月）

一般財団法人日本清涼飲料検査協会

月別 区分別		2026年6月				2025年6月				前年 対比%	2026年1月～2026年6月				2025年1月～2025年6月				前年 対比%
		びん・PET	缶	計		びん・PET	缶	計			びん・PET	缶	計		びん・PET	缶	計		
1. 水に二酸化炭素を圧入したもの	c / s	169,643	2,161	171,804		163,097	2,403	165,500	104	914,120	4,568	918,688		1,139,284	4,758	1,144,042	80		
	kl	863	10	873		818	12	830	105	4,564	22	4,586		5,723	23	5,746	80		
2. 果汁・果汁ピューレ・乳又は乳製品を加えたもの	c / s	2,400	18,998	21,398		730,366	349,355	1,079,721	2	19,388	86,675	106,063		4,872,030	1,902,271	6,774,301	2		
	kl	29	160	189		6,904	2,898	9,802	2	234	800	1,034		46,175	15,686	61,861	2		
3. 果汁又は果汁を印象づける色及び香りをつけたものの	c / s	740,548	414,490	1,155,038		0	0	0	—	5,496,247	2,361,085	7,857,332		8,119	0	8,119	96,777		
	kl	7130	3242	10,372		0	0	0	—	52,583	18,553	71,136		39	0	39	182,400		
4. 1,2及び3以外のものの	c / s	2,802,917	2,052,243	4,855,160		2,536,392	2,171,493	4,707,885	103	17,427,897	11,345,190	28,773,087		16,495,812	11,034,985	27,530,797	105		
	kl	24,121	16,162	40,283		21,834	17,532	39,366	102	150,576	89,993	240,569		143,118	89,179	232,297	104		
合計	c / s	3,715,508	2,487,892	6,203,400		3,429,855	2,523,251	5,953,106	104	23,857,652	13,797,518	37,655,170		22,515,245	12,942,014	35,457,259	106		
	kl	32,143	19,574	51,717		29,556	20,442	49,998	103	207,957	109,368	317,325		195,055	104,888	299,943	106		

⑥